

**論点整理①「今後の都市政策の基軸となる考え方」****1. 都市政策に求められる変革****問題意識**

- これまでの都市政策は、人口増による都市の膨張を前提としてきたが、今後は人口減少をはじめとした社会経済情勢の変化を踏まえて都市政策も変革が必要。

**論点**

- 人口減少社会では都市の活力、生活環境の維持・向上に向けて、各種機能の配置誘導策や各種機能が最大限に効果を発揮するための環境整備等の戦略的な対策を講じていくべきであり、その際、交通政策、産業政策、農業政策、福祉政策、医療政策、環境政策等の都市において展開される広範な施策を対象とする必要がある。従来からも都市計画は、都市を一体としてとらえ、総合的に整備・開発・保全するための政策と位置づけられていたが、実際には必ずしも総合的な政策として十分な機能を果たしていないのではないか。このため、今後の都市政策は、真の意味で「都市における総合的かつ戦略的な政策」となるように再構築すべきではないか。
- 今後は、これまでに整備した施設の維持・管理の負担が大きくなるほか、人口減少に伴い需要が減少すると、有効に活用されなくなったり、役目を終える施設もでてくるのが想定される。このため、これまでの施設計画やその整備を中心とした都市政策から、今後は、施設完成後の維持・管理や、利用目的の変更やそれに合わせた修復を行って適切に利活用するなどの施設整備後のケアを重視した「都市経営」に重点を置いた都市政策に転換すべきではないか。
- これまで、人口増に伴う需要増について将来予測をおこない、それに基づいて目指すべき将来像を提示しようとしていたが、作成した将来像が部分的だったり、その共有が十分でないなど、将来像の提示は必ずしもうまくいっていなかった面があるのではないか。加えて、今後は人口減少局面となり、需要の側面以外に不確実な要素を多く含み、予測不可能な事態が起こりうる。そのため、将来像の提示を固定的に行うことを目指すのではなく、状況の変化に対して「柔軟な対応」が求められるのではないか。

## 2. 重視すべき価値・考え方

### 問題意識

- 「今後の都市政策の方向」を導くにあたっては、その前提として、多くの人が共感でき、さらには、中長期的な時代を見据えても普遍的であるような価値や考え方を整理しておくことが必要。

### 論点

今後の都市政策を進める上で、重視すべき価値・考え方には、例えば、以下のキーワードに現されるようなものが含まれるのではないか。他にどのような価値・考え方を取り入れるべきか。

- 将来の世代によりよい都市を残していくという「持続可能性」。
- 土地利用や建築物がほどよくコントロールされ、緑豊かで自然との共生が図られているなど、将来世代に誇りをもって引き継げる「高質・良質」なまち。
- 過度に自家用車に頼ることなく、子供、高齢者、障害者等が不自由なく日常生活が送れ、環境にも優しい「暮らしやすさ」。
- 限りある資源の枯渇を心配することなく、将来にわたって様々な利便性を享受できる「循環」の仕組みを取り入れたまち。
- 災害や犯罪から生命・財産が守られ、充実した医療・福祉サービスが受けられる「安全・安心」。
  
- 経済活動、文化活動などの様々な活動が活発に行われる「活力」。
- 住民だけでなく、観光客を含む多くの来訪者も集積する「賑わい」。
- IT技術や環境技術などの「技術革新」の成果が積極的に取り込まれる都市。
- 外国人からみても魅力的であり、グローバル経済の急激な変化にも柔軟に対応できる「国際都市」。
- 地域の自然、歴史、伝統・文化に根ざした「個性」。
  
- 住民、NPO、企業、市町村、都道府県、国など都市政策に関わる多様な主体が適切な役割分担のもと、相互に幅広く連携する「協働」。
- 住民等が幅広く共感して政策を進めるために必要となる説明とその前提となる情報の充実を行政が実行して、住民がまちづくりに主体的に参加することなどで向上する「信頼性」。